

疾風の侍たち



疾風の侍たち

九武将、サーキットに集う。

かつての武士道が、最速のテクノロジーと融合する。

「Gale Circuit League」

それは、信念なき者は走れない、極限のバトルフィールド。

BE

Made with AI

収録曲一覧

1. 紅蓮のスタートライン / Crimson Startline

(Hyper J-Rock / Electro Metal) 織田レイジ Aレーシングチーム代表兼エースドライバー

2. 不死鳥の再加速 / Phoenix Overdrive

(Pop Punk / Racing Rock) 真田アカネ 独立系レーサー兼スタートアップオーナー

3. 王者のポールポジション / Pole Position Crown

(Industrial Rock / Stadium Anthem) 徳川シュウゴ 名門レーシングチーム総監督

4. eスポーツグリッド / Grid Breaker

(Drum and Bass / Game Rock) 上杉レン eモータースポーツ世界王者兼リアルレーサー

5. 白衣のピットガーディアン / Pit Guardian

(Emotional Fast Rock / Hero Anthem) 武田ソウマ チームメディカル統括兼セーフティドライバー

6. ネオン独眼竜 / Neon Apex Dragon

(Synthwave Rock / Racewave) 伊達カイ データ戦略型テックレーサー兼開発責任者

7. ルーキーイグニッション / Rookie Ignition

(Youth Anthem / Speed Pop Rock) 細川ミナト レーシングアカデミー監督兼若手育成ドライバー

8. シルバーラストラップ / Silver Last Lap

(Classic Rock / Grand Finale Anthem) 毛利シンイチ ベテラン開発ドライバー兼チームビルダー

9. グリーンフラッグ革命 / Green Flag Revolution

(Future Rock / Electro Hybrid) 加藤ハヤト 次世代EVレーサー兼サステナブルマシン開発者

10. 疾風の侍たち / Samurai of the Gale

(Epic Anime Racing Anthem / Hyper J-Rock) 九武将結集 / 日本代表級レーシングチーム

紅蓮のスタートライン / Crimson Startline



紅蓮のスタートライン / Crimson Startline

AI制御マシンを武器に世界最高峰シリーズへ参戦。データと直感の狭間で最速を追い求め、日本発のレーシングテクノロジーで常識を塗り替える。

赤い警告灯がまぶたを叩く 起動音が夜明けを裂いた

紅いラインで描いた未来図 誰にもまだ読めないアルゴリズム 黙ったピットに火花を撒いて
最初の一週で時代を奪う 勝つためじゃない 塗り替えるため 常識の壁をテレメトリで割れ
信じるのは勘だけじゃない 冷たいデータも俺の血だ

HUDの奥で心拍が跳ねる 最適解より危険な一手 スタートシグナル その一瞬で
世界の順番を入れ替える

紅蓮のスタートラインを駆ける 未来の地図を焼き付けながら AIの眼と人間の衝動
両方抱いて先頭へ行け Break the future with crimson sparks
赤い意志で夜明けを奪え 誰も見たことのない速度で 新しい王座を実装しろ

失敗ログなら山ほどあるさ だがその全部が刃になる 笑うノイズも遅延も誤差も
次のアップデートの燃料だ カーボンの匂い 指先の熱 コードとタイヤで未来を縫う
この一台に国の夢まで 背負えるならまだ加速できる

ゼロか百かじゃ測れない 魂まで数式にできない だから最後は俺が決める
この直感で世界を刺す 赤く 鋭く 高く 革命はもう待たない

火花を散らせ 回路を鳴らせ

紅蓮のスタートラインを越える 恐れも迷いも置き去りにして 機械の空に心臓を鳴らせ
最速の意味を書き換えていけ Break the future with crimson sparks
勝利じゃ足りない 伝説になれ この一瞬が次代のプロローグ 真っ赤な朝へ飛び込め

警告灯は消えた もう走り出している

不死鳥の再加速 / Phoenix Overdrive



不死鳥の再加速 / Phoenix Overdrive

大クラッシュによる挫折とスポンサー離脱を乗り越え、再びサーキットへ復帰。何度でも立ち上がる不屈のレーサー魂で逆転優勝を狙う。

焦げた匂いの向こうで まだエンジンは息をしていた

横転した景色を忘れない 砕けたガードも叫びも全部 沈んだスポンサーの看板より
折れなかった骨の音を信じた 一度消えた火なら知っている もう一度燃えると強いことを
敗者の顔でうつむくたびに 悔しさだけが背中を押した

灰の底で脈を打つ まだ終わるなと胸が言う 傷跡ごとアクセルに変えて
焼け落ちた空へ這い上がれ

不死鳥の再加速 今始まる 燃え尽きた昨日を追い越して 壊れた翼で十分だろう
落ちた回数ぶん高く飛べ Rise again, burn again この命ごと前へ突っ込め
逆境は俺のガソリンだ 最後に笑うため走れ

無音のガレージ 凍る指先 工具の金属がやけに優しい 離れた仲間もいたけれど
残った声が本物だった 再点火の瞬間 見えたんだ 負け続けた夜の向こう側
失ったものを数えるより 奪い返す明日を数えたい

情けないって笑えばいい 泥だらけって言えばいい それでも戻ると決めたから
この心臓はやめられない 炎は美しくなくていい しつこく醜く燃え続ける

灰を裂いて 空へ駆ける

不死鳥の再加速 まだ足りない 歓声よりも速く蘇れ 転んだ意味まで勝利に変えて
この直線を焼き尽くせ Rise again, burn again もう一度だけじゃ終わらない
生き残るんじゃない 奪い返すんだ 逆転の旗を掴め

残った火種は もう嵐になった

王者のポールポジション / Pole Position Crown



王者のポールポジション / Pole Position Crown

勝利至上主義から持続可能なチーム経営へ転換。若手育成と勝利の両立を背負い、冷静な采配で最前列を守り抜く。

照明が落ちても 王者の視線は揺れない

派手な歓声はいらないさ 静かな采配が流れを決める 最前列とは奪うものじゃない
守り抜く責任の座標だ 勝ち方だけを教えるなよ 残し方まで考えて走れ
若い瞳がこちらを見るなら 背中で答えるしかないだろう

一手遅れれば全てが崩れる だからこそ焦りを飼い慣らせ 冷えた理性のその奥にある
熱だけは決して捨てるな

王者のポールポジション 譲らない 黄金の意思で隊列を導け 勝利の先に明日を置いて
ひとりじゃなくチームで勝て Hold the crown, hold the line
静かな号令が時代を動かす 最前列は孤独の玉座 それでも前だけを見る

無敗の時代もあったけれど 永遠なんて記録にはない だから育てる 次の刃を
俺がいなくても勝てるように 称賛よりも重いものがある 任せるといふ決断の重さ
ハンドル越しに見える景色は 権力じゃなく責任だった

王とは強さの飾りじゃない 沈む者まで数えることだ 遅れたマシンも 若いミスも
全部抱えて先頭に立つ 守るだけでは古くなる 変える覚悟で守り抜け

金色の雷鳴 沈黙を裂け

王者のポールポジション ここにある 誰より重い旗を掲げて 勝利の意味を更新しながら
未来の隊列を整える Hold the crown, hold the line 喝采よりも信頼を選べ
最後に残る本当の王は 次代を走らせる者だ

静かな拍手が 夜を閉じていく

eスポーツグリッド / Grid Breaker



eスポーツグリッド / Grid Breaker

シムレース最強の称号を引っ提げてリアルレースに挑戦。偏見とプレッシャーを吹き飛ばし、反射神経と集中力で実戦の頂点を狙う。

ロード完了 現実のグリッドへ接続

画面の向こうで積んだ周回 フレーム単位で磨いた反射 コントローラーじゃない今日の鼓動
本物の振動が身体を撃つ 舐めた視線なら何度も見た バーチャル上がりの飾りだって
だったら一周で証明しよう この指先は現実も切れる

ラグはない ブレもない 思考はもう入力済みだ 信じるのは才能じゃない 積み上げた反復の勝利

eスポーツグリッド 突き破れ 仮想の王者が現実を塗る 視界の端まで全部ロックオン
一瞬先まで読み切っていけ Level up, game on, no fear 歓声ごとスコアに変える
偏見の壁はチェックポイント クリアするたび強くなる

夜通し回した練習部屋 青い光だけが友達だった 負け配信のコメント欄さえ
今じゃ燃料にしかならない ブレーキングの百ミリまで 感覚じゃなくて叩き込んだ
リアルは甘くない だからこそ 勝ったとき全部ひっくり返る

リセットなんて要らないさ 失点込みで俺のデータだ 手汗も心拍もノイズじゃない
本番の熱で研ぎ澄ませ ゲームでも現実でもない 勝負の本質は同じだろ

ビットが吠える タイヤが歌う

eスポーツグリッド 駆け上がれ 現実の頂点へフルアクセス 疑いも野次も追い越しながら
最速のタグを奪い取れ Level up, game on, no fear この瞬間が世界更新だ
仮想と現実を繋ぐ一撃 勝者のログを刻め

接続は切れない 次のレースが始まる

白衣のピットガーディアン / Pit Guardian



白衣のピットガーディアン / Pit Guardian

大事故の現場にも真っ先に駆けつけ、命を守りながらチームを支える要として奔走。安全と勝利の両立を信じる現代の守護神。

サイレンより先に 祈りが胸を走り出す

歓声の裏で聞こえる音を 俺だけは聞き逃したくない 拍手の波に隠れた悲鳴
最初に拾うのが役目だろう 白衣に染みるオイルの匂い 命と速度が交わる場所で
守ることは止めることじゃない また走れる明日をつなぐこと

震える手でも離さない 名前のない恐怖の夜を 大丈夫だと灯すため この場所で立ち続ける

白衣のピットガーディアン 白い閃光で命をつなげ 勝利のためじゃない その前に
帰る場所を守り抜け Save the heart, save the run 涙の隣で光になれ
速度と優しさは両立できる そう信じて前へ行け

クラッシュのあとに残る静寂 それがいちばん重い瞬間だ ヘルメット越しの震える目を
何度も見てきたから分かる 間に合えと願う足音は 誰かの未来へ橋を架ける
救う手は派手じゃなくていい 確かな温度があればいい

英雄になりたいわけじゃない ただ間に合わせたいだけだ またアクセルを踏める朝を
仲間に戻してやりたいんだ 白い光は弱く見えても 闇の中ではいちばん遠くへ届く

鼓動を聴け 息をつなげ

白衣のピットガーディアン 祈りだけでは終わらせない 傷跡ごと明日へ運んで
生きて走る意味を守れ Save the heart, save the run この両手で未来を支える
誰かの帰還がチェッカーになる その日まで灯りている

静かな朝に また一台 走り出す

ネオン独眼竜 / Neon Apex Dragon



ネオン独眼竜 / Neon Apex Dragon

走行データと未来予測AIを駆使し、夜の市街地レースで最速ラインを切り拓く。派手さと知性を兼ね備えた独眼竜が頂点へ迫る。

紫の街がまばたくたび 最短距離が浮かび上がる

眠らない高架を滑る影 片目のバイザーに都市が映る 派手だと言うならそれでいい
美学のない速さは退屈だ 予測線の先を先回りして 誰より冷たく熱く曲がる
夜を味方にするその瞬間 ネオンが刃のように笑う

焦るな ただ研ぎ澄ませ 雑音は全部ミュートしろ 一瞬の apex その一点へ 意志を細く鋭く通せ

ネオン独眼竜 夜を裂け 紫の稲妻で街を貫け 美しく速く それでいい
勝者の軌跡を光で描け Ride the neon, own the apex 冷たい瞳で熱を支配しろ
誰にも真似できないラインで 静かに頂点を奪え

歓楽の看板 雨粒の反射 全部データに変えて飲み込む 感情を捨てたわけじゃない
最短で燃やす術を知ってるだけだ 無駄のない動き 無駄のない言葉 だが胸の奥は誰より荒い
見えない孤独を抱えたまま 夜明けの前だけ本音になる

きらびやかだと笑うなら笑え 飾りの裏まで知っているか 選び続けた捨て石の数を
沈黙の中で研いだ刃を 孤高は弱さじゃない 頂へ向かうフォームだ

ネオンを裂け 夜を刻め

ネオン独眼竜 風を切れ 都市の鼓動ごと追い越していけ 美学も孤独も武器に変えて
最後の apex を奪い取れ Ride the neon, own the apex 紫の誇りを空へ放て
一番暗い時間を抜けた先に 本当の朝が待っている

街の灯りが消えるころ 俺だけが笑っていた

ルーキーイグニッション / Rookie Ignition



ルーキーイグニッション / Rookie Ignition

才能ある若手ドライバーを育てながら、自らも現役として走り続ける。教育と実戦の両輪で、次世代の勝者をサーキットへ送り出す。

まだ未完成の火が ピットの空気を温めていく

ぎこちないクラッチの音でも 夢の輪郭ははっきりしてる まっすぐ過ぎる若い瞳に
昔の自分がよく似て見えた 教えるだけじゃ届かないから 俺もまだハンドルを握るんだ
背中で見せる一周の意味 失敗の価値まで引き渡したい

うまくなくていい 今はまだ 火を消すな それだけでいい 迷いながら前へ出る足が
いつか本物の速さになる

ルーキーイグニッション 火を点ける 未完成のまま飛び込んでいけ 憧れはいつか技術に変わる
怖くても胸を張って走れ Start young, burn bright 未来は待つものじゃない
次の時代を任せるために 今この瞬間を渡すんだ

叱るたびに思い出してる 守られたかった頃の自分を だから言葉は厳しくても
最後に残すのは希望にする 転んだ膝も荒い呼吸も 才能より先に磨く勲章
昨日より少し遠い景色を 見せられたならそれでいい

追いつけ 追い越せ ためらうな 正しさだけじゃ夢は光らない 悔し涙のしょっぱさごと
君だけの燃料に変えていけ 若さは未熟じゃない まだ伸びる余白そのものだ

火をつなげ 風を起こせ

ルーキーイグニッション 燃え上がれ 未完成だから速くなれる 教わったものを超えていくとき
本当の未来が動き出す Start young, burn bright このサーキットで名を刻め
次の時代へ手を振るように 希望ごとアクセルを踏め

朝の旗が揺れる 次の主人公は君だ

シルバーラストラップ / Silver Last Lap



シルバーラストラップ / Silver Last Lap

引退間近と見られながらも経験と読みでレースを支配。最後の一周で若手を導きつつ、自らの誇りを懸けた走りを見せる。

拍手は遠く 呼吸だけが若いころに戻る

銀色に擦れたヘルメットには 勝った日より負けた日が光る 最終周なんて言葉ひとつで人は勝手に幕を下ろしたがる まだ終わるには景色が多い 託す前に伝える走りがある 経験とは守りの名じゃない 削り取った歳月の切れ味だ

急がなくていい だが緩むな ここまで来た意味を鳴らせ 若い背中が迷わぬように 最後の背中を見せてやれ

シルバーラストラップ 走り抜ける 夕陽の向こうへ誇りを運べ 古い傷まで風に変えたら まだ誰よりも前に行ける One more lap, one more fire 終わりは自分で決めればいい 受け継ぐ者に託すためにも 今はまだ先頭でいる

何人もの才能を見送って 何度も時代の顔を見てきた 速さだけでは残れないこと 遅さだけでも勝てないことも 無口なエンジンの震えひとつで 機嫌も嘘もだいたい分かる 老いたんじゃない 研ぎ澄ましたんだ 迷いを削って芯だけにした

去り際の美学を語るには この心はまだ熱すぎる 名残じゃなくて証明として 最後の一周を刻みたい 歳月は重りじゃない 遠くへ飛ばすための反動だ

銀を鳴らせ 夕陽を裂け

シルバーラストラップ 終わらせるな 拍手の前に伝説を置いてけ 若い瞳へ火を手渡ししながら 自分の誇りも守り抜け One more lap, one more fire この背中で時代をつなげ 最後の直線 風になれ まだ終幕には早すぎる

チェッカーの向こうで 夕陽が深く頷いた

グリーンフラッグ革命 / Green Flag Revolution



グリーンフラッグ革命 / Green Flag Revolution

環境負荷を抑えた次世代マシンで新リーグへ参戦。速さと持続可能性は両立できると証明し、レースの未来を塗り替える。

風の音がする 新しい駆動音と混ざり合って

静かなトルクが大地を蹴った 煙の代わりに朝露が跳ねる 古い常識に頭を下げず
速さの定義から作り直す 守るためだけの優しさじゃない 変えるための覚悟を積んできた
次世代なんて飾りじゃないさ 今日ここで証明する言葉だ

風力の羽も街の灯りも 全部未来のピットクルーだ 地球の鼓動に耳を当てて 新しい革命を起こせ

グリーンフラッグ革命 旗を振れ 静かな力で時代を動かせ 速さと希望は両立できる
その答えをコースに残せ Launch the future, keep it alive 青い惑星へ誓いを立てる
綺麗事だと笑われても 結果で思想を貫け

数字で語れと迫る声にも 胸の理想は曇らせない 効率だけじゃ救えないもの
それでも技術で届く場所がある 風を切るたび思い出してる 誰の空気を守りたいかを
速ければそれでいい時代は ここで静かに終わらせる

革命は怒号じゃなくていい 静かな確信でも世界は変わる 汚さないために遅くなる？
その常識ごと追い越せばいい 緑の旗は妥協じゃない 未来へ向かう合図だ

風を鳴らせ 大地を照らせ

グリーンフラッグ革命 進み続ける 明日の空気を今日守りながら 優しさまでも推進力にして
次の時代の先頭へ行け Launch the future, keep it alive この一周で価値を更新しろ
速さと理想が並ぶ景色を 世界に見せつける

緑の光が 朝をまっすぐ呼び込んだ

疾風の侍たち / Samurai of the Gale



疾風の侍たち / Samurai of the Gale

九人の侍たちとクルーが同じチームに集結し、それぞれの強みを武器に世界最高峰レースへ挑む。風を切り裂き、夜明けの先へ走り抜ける集大成の決戦。

九つの鼓動が重なる 風がチーム名を呼んでいる

紅の野心 炎の再起 黄金の采配 青い照準 白い祈り 紫の孤高 若い火種と銀の矜持
緑の革命 その全部を 同じガレージの空に掲げる 違う傷を持つ者たちが 同じ明日を選び取った

ひとりでは届かない場所へ 九つの意志で踏み込んでいけ 勝ち方も夢も違うけれど
進む向きだけはもう同じだ

疾風の侍たち 風になれ 九つの魂で夜明けを奪え 火花も涙も誇りも全部
このストレートでひとつにしる Samurai of the gale, ride on 叫びはやがて旗になる
限界の先へチームで行こう 世界を震わせるまで

挫折を知る者が支えになり 未来を描く者が道を照らす 守る手があれば攻める刃もある
遅れた夜にも意味が宿る 誰かの強さは誰かの弱さを 責めるためじゃなく埋めるためにある
だからここまで来られたんだ バラバラのままでも最強になれた

国も肩書きも世代さえも この瞬間だけは追い風だ 孤独の速さも 絆の重さも
全部積んで最終コーナーへ 負けた物語を終わらせよう ここから先は俺たちが書く

風を裂け 夜明けを奪え

疾風の侍たち 走り抜ける 九つの名前を光に変えて それぞれの過去を翼にしなが
らまだ見ぬ頂へ飛び込め Samurai of the gale, ride on この国の夢を背中に乗せて
誰も見たことのない朝を チームの速度で迎えに行け

風はもう味方だ 次の伝説へ

A vibrant, futuristic anime-style illustration. In the center, a group of samurai warriors stands on a dark, reflective surface. They are dressed in a mix of traditional samurai armor and modern, high-tech tactical gear. The background is a dynamic, high-speed cityscape with streaks of light and a bright, glowing sky. The overall color palette is dominated by blues, yellows, and oranges, creating a sense of energy and movement.

Last Samurai Japan